

## 中学生の「税についての作文」

大木町長賞

### たくさんの税

大木町立大木中学校

三年 元村 颯

日本には私たちが知っているたくさんの税があります。例えば、物を買うときについてくる消費税や毎年、国に払わなければならない納税など税にもたくさんの種類があります。

消費税は、年々税率が上がってきています。以前までは、五パーセントだったのが今では、八パーセントになり平成三十一年の十月一日からは、十パーセントまで上がるそうです。消費税が上がって得をする人はいるのだろうかとも思います。税金は道路、公園、上下水道、森林などの整備などに使われているなんて初めて知りました。今の日本は、少子高齢社会なのに対して消費税を上げようとしているので高齢の人たちや仕事につけてない人たちはどのようにして払っていくのだろうかとも思いとても不安に思っています。

もし、税がなかったら今現在の日本は、どうなっていくのだろうかと考えてみると、消防など火災がおきたときにどのようなにやるのか

など、生きていくうえで税金は、必要だとあらためて思いました。景気が良いときには、税金を上げ景気が悪いときには税金を下げるなど景気にあわせて調整するなんてよく考えられているなと思って感心しました。

税にもふるさと納税といったお金を納税しその分の地域の特産物が返ってくるといったシステムがあることを初めて知ったのでとてもおどろきました。

しかし、税金は、払う人もいれば脱税している人もいるとたまたまニュースで聞きます。その人たちは、他の人が汗水たらして働いてやっとの思いでもらえた給料の中から税金を払っているのにどうしてそんなことをするんだろうとも思いました。

消費税やふるさと納税などのほかにも、その土地に住むだけで払わないといけない所得税や住民税といったことまかな税があると知ってびっくりしました。

今の人間は、税がないと生きていけないと思います。自分だけのためではなく困っている人を助けるためにも税金は、とられるものではなく社会を支えるために自ら納めるものということを感じながら私たちが大人になって税金を払っていききたいと思いました。

